

市民センター担当のある1日

8:30 全員で朝礼
市民センター巡回

公用車4台を使って、手分けして18か所の市民センターへ！勤務管理・会計書類等を回収。

12:00 お昼休憩
市民センター巡回

書類はその場でチェックをして持ち帰ります。100人以上の市民センター職員の労務管理も大事な仕事の一つ！

16:00 事務所に戻り、書類
確認作業

17:15 退勤



急な修繕依頼にも
駆け付けます！



「たくさんの方が元気になれる、
快適で安全な環境をつくりたい！」

#お仕事
ファイル

財団のお仕事をご紹介します！

File 15 コミュニティ振興課
市民センター担当

コミュニティ振興課は、市内全18か所の市民センターと、14か所の地区会館・13か所の地区図書室を管理する部署です。市民センター担当は、各施設の保守管理や修繕、文書交換便配達、コミュニティ講座の企画・運営など、多岐に渡る業務を行っています。災害時には一部の市民センターが避難所となるため、避難所開設訓練も欠かせません。市民センターが安全で元気になれる場所として、その環境づくりに取り組んでいます。

お仕事の中で、やりがいを感じることは？

各施設で日々新しい何かが起こり、仕事の内容も多種多様という意味で“ルーティーンがないところ”でしょうか。柔軟性や対応力を鍛えつつ、市民センター職員やお客様の声に耳を傾け、より一層快適に利用してもらえるようこれからも努めていきたいと思います。(市民センター担当スタッフ)

インタビューしました！

ラブララ

voice

財団主催公演の来場者アンケート
から、感想を少しご紹介♪

6/1(土) 南大沢文化会館 主ホール 鼓童×三宅島芸能同志会

・演目も構成もどれも刺激的で新鮮でしびれました。息子も一曲目から身を乗り出して大拍手でした。リズムの多様さにきぎ付け!! コラボ立ち上げの時期より進化がすばらしく、次の公演も楽しみです。



深貝理紗子(ふかがいりさこ) ピアニスト。エコール・ノルマル音楽院を経てスコラ・カントルム音楽院首席修了。東京文化会館主催公演など出演多数。柴田南雄音楽評論賞受賞。近現代音楽、フランス芸術サロン文化を中心に活動を展開中。

連載

フランス音楽を纏う

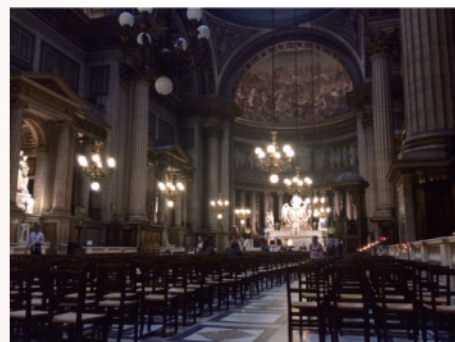
Vol.3

サン＝サーンスとユーモア

深貝理紗子

わが恋ふる 君ぞ昨夜の夜夢に見えつるー
万葉集の巻二に収められているこの歌は、海を渡り「八七二年、フランスのサン＝サーンスのオペラに登場します。夢うつに日本の浮世絵美人を巡り恋心が描かれたのち、すべそばにある幸せに気がつくという物語『黄色い女王』。題材や音階など、ジャポニスムブーム目前の先取りに加え、軽やかな喜びを交えているところに、人を楽しい気持ちにさせたいサン＝サーンスの笑顔が見えるようです。

『動物の謝肉祭』もまた、茶目づきたつぷり。運動会でお馴染み、オッフェンバックの『天国と地獄』は、のそのそカメさんとして登場しますね。自作曲ときらきら星などの民謡を組み合わせた『化石』の自筆譜には、恐竜の化石の絵が：いろいろな曲のかけらを集めて、面白い曲ができたでしょ？みたいに遊んだのかな。考古学にも興味を持っていた彼には、ぜひ八王子の遺跡も見て、アイディアにしてほしいかなと思ったり。この曲集は、仲良しのチェリストのために書かれた



サン＝サーンスがオルガニストを務めたマドレーヌ寺院

もので、友達を楽しませたいサービスピ精神が垣間見えます。もつと素敵なのは、いまやチェロの人気曲となつた『白鳥』の美しいこと！ユーモアとは、やはり大切な人を喜ばせるためにあるのでしょうか。

芸術作品は私たちに古の夢を歩かせてくれ、人の温かみを運んでくれます。名曲揃いのなかで、私は『忘れかけられた楽器のために』書かれた曲が大好き。大学時代、友達とたくさん演奏したな。慈愛に満ちた音楽は、心に沁みる手紙のようです。皆さん、ぜひ彼のクラリネットソナタを聴きながら、大切な方へ言葉を紡いでみてください。

八王子地域のイベントに積極的に参加 東京都立大学茶道研究会による茶道体験の発信



ミライの文化を創り出す、次世代の若者たちの活動を研究するコーナー！

ミライの
BLINKA
研究室

先輩から後輩へ、30年以上作法を受け継ぎ 日本文化の総合芸術・茶道で一期一会の交流を

現在の3年生で30期を数え、総勢33人が所属する東京都立大学茶道研究会。学内稽古でお点前を学びながら、市内でのイベントにも積極的に参加しています。9月に開催される「新人茶会」を控えた稽古の場を訪ね、茶道の魅力とイベントへの思いを伺いました。



着物の着付けも自分たちで！
2024年5月
ビッグウエスト
学生フェス
ティバル

過去に参加した イベントの様子をご紹介！



2023年10月
八王子
芸術祭

ときには椅子での
作法「立礼」で
カジュアルに

特別展「場所に向き合い、気付き、感じる」では、秋らしい設えと、地元作家の茶器、花瓶などの作品とコラボレーション。



河崎智哉さん
(3年生)

茶道歴2年半。茶会責任者を務め、家でも茶筌でお茶を点てて楽しむ。

茶道のお点前は大きく半年ごとに変わり、季節によって掛け軸や花も変化するため、学びが尽きません。学外イベントでは普段の稽古と環境が大きく変わりますが、和敬清寂の精神はそのままに、お客様に楽しさを感じてもらうことを大切にしています。また、多くの方と交流することで、さらに活動の輪を広げていきたいですね。



潮田真宏さん
(2年生)

茶道歴1年半。茶道をはじめてから気になった季節の花は調べることも。

さまざまな要素がある茶道は知るほどに奥が深く、常に新しい学びに触れることができます。お茶席はコミュニケーションですので、自分がその場に調和できているかを俯瞰して考えるように心がけています。お茶席に込めたテーマをお客様へ説明する学外イベントでは、その意味を紐解き改めて考える良い機会になっていると感じています。



大学生から新しいことに挑戦してみたい、和装に興味がある、和菓子が好きなど、皆さんの入部の理由は様々ですが、取材班が体験させてもらった洗い茶巾のお点前では、茶道具、花など端々に季節の移ろいと心遣いを感じました。柔軟で粋な演出の創造がスゴイ！

東京都立大学 茶道研究会

南大沢キャンパス7号館2階和室にて、毎週土曜日13:00～17:00の学内稽古を基本に、学内外で裏千家の先生にお点前を学ぶ。

Instagram

